瀬戸内の石材産地視察研修会

㈱はせがわ、㈱日本銘石、㈱茨城の石本舗、鳴本石材㈱

首都圏を中心に墓石販売を行なっている株式会社はせがわ、福島県の石材採掘業者5社で設立する株式会社日本銘石、茨城県の石材採掘業者と加工業者12社で設立する株式会社茨城の石本舗、瀬戸内産銘石の販売実績などで定評のある石材メーカー・鳴本石材株式会社の4社は、去る6月20日～21日の二日間にわたり、瀬戸内石材産地の視察研修会を開催した。

瀬戸内は庵治石や大島石、青木石、北木石、万成石、備中青みかげなどの銘石で知られる日本でも有数の石材産地。年々国産材の販売実績を伸ばす小売店大手の㈱はせがわと、国産材の流通拡大を積極的に目指す㈱日本銘石、㈱茨城の石本舗、鳴本石材㈱の、製販一体となった企画といえよう。首都圏の霊園では徐々に国産材販売の実績が伸びてきている傾向もあるようで、今回の研修会にはこの国産回帰傾向のなかで、福島、茨城の銘石だけではなく、瀬戸内産地をはじめ全国の国産材の浸透を目指す狙いがある。

万成石の丁場（㈲武田石材）にて、視察研修会に参加の皆さん

首都圏でも古くから人気の万成石

初日、最初の研修地となった万成石の採掘元、㈲武田石材（岡山市北区）では高橋健太社長と高橋信一専務が出迎え、万成石の歴史や特徴を詳しく説明。一行15名のほとんどは瀬戸内の採掘現場は初めてということもあり、熱心な質問が寄せられていた。

万成石といえば、石原裕次郎や彫刻家・浅倉文夫、高村光太郎など多くの著名人の墓所に使用され、建築でも神宮絵画館、新宿伊勢丹ビルなどは有名である。ピンク色のため「桜みかげ」とも呼ばれ、東京・谷中霊園など首都圏でも古くから親しまれている。

建立後に青磁の肌を感じさせる大島石

二日目は大島石採掘場、鳴本石材工場、北木島に渡り北木石の採掘場の順で見学。大島石は約400年前に藤堂高虎が徳川家康の命を受け、今治城の築城に使用されたのが始まりとされるという銘石。明治から大正、昭和にかけて採石技術の進歩・機械化によって、採石量が増え、脚光を浴びる。現在では関西のブランド銘石として知名度が高く、採掘業者も多い。

大島石材工業㈱・小田満弘氏による案内のもと大島石の丁場見学とともに、特別講義では熱い想いなども語られた

鳴本石材㈱工場にて、加工メーカーとしてのこだわりや想い、現在の取り組みなどについて説明を受ける

その中でも130年の歴史を持ち、大島石「石善」の採掘元として知られる大島石材工業㈱（愛媛県今治市）の六代目棟梁・小田満弘氏が現地を案内。経年変化が少なく、吸水性が低く、撥水性が高い大島石の特性などについて説明いただいた。また特別講義では「先祖たちの築き上げてきた石文化と職人としての誇り」についての熱い想いには、圧倒され感嘆の連続だったようだ。

フル稼働体制の鳴本石材の本社工場

西日本の中でも大規模の加工工場を持つ鳴本石材㈱では、国産材の原石仕入れから加工、製品化まで一貫体制で行なっている。ここ数年は首都圏の小売石材店からの注文も多く、冷え込みぎみの墓石業界で販売実績を広げてきている。今回の研修でも原石の歩留まり率やキズ・玉の見分け、加工工程、検品、字彫りなど、丁寧な説明に熱心にメモをとる姿が目立った。

靖国神社の大鳥居で知られる北木石

鳴本石材の工場見学後、鶴田石材㈱（岡山県笠岡市）の鶴田康範社長の案内でクルーザーにて北木島へ。北木石は靖国神社の大鳥居、日本銀行本店本館、明治神宮・神宮橋など多くの歴史的建造物に使用されている。墓石材としても京都、大阪、兵庫などを中心に知名度が高い。しかし、現在の採掘元は鶴田石材を含む2社のみとなっている。

北木島は周囲16㎞の島全体が花崗岩でできている。靖国神社の大鳥居など古くは海面より上か同じ高さで採掘されていたが、現在は海面よりかなり深い層で採掘されている。そのため密度の高い良質の石が採掘されているという。

なお、今回の研修会は鳴本石材㈱のコーディネートで実現されている。

北木石の丁場（鶴田石材㈱）にて、良質な石が採れている現在の採掘状況などについて理解を深めた